

日本国民が被爆者とともに訴えた「原水爆禁止」の声は世界に響きわたり、圧倒的多数の政府と市民社会の声となり、核兵器禁止条約を国際法として発効（２０２１年）させました。そして、昨年12月１０日、日本原水爆被害者団体協議会がノーベル平和賞を受賞しました。しかし、問題はまだ解決していません。核保有国は核兵器禁止条約に反対し、核抑止力を強化しています。世界で唯一の戦争被爆国である日本政府も、アメリカの



国連認証ＮＧＯ：**原水爆禁止日本協議会（日本原水協）**

〒113-8464　東京都文京区湯島２丁目４－４

TEL 03-5842-6031 HP: http//www.antiatom.org

E-mail antiatom55@hotmail.com

**７１年前、****原水爆禁止の総意を築いた「ビキニ署名」**

ことし３月１日は、アメリカが中部太平洋のマーシャル諸島・ビキニ環礁でおこなった水爆実験（コード名「ブラボー」）から７１年です。実験で使用された水爆の威力は、広島に落とされた原爆のおよそ１千倍でした。水爆は、美しいサンゴ礁を「死の灰」に変え、近海を操業していた多くの日本のマグロ漁船員やマーシャル諸島の島民たちに深刻な放射線被害を与えました。乗組員２３人全員が「死の灰」を浴びた第五福竜丸をはじめ、汚染マグロが検出された船はのべ１千隻、乗組員は約２万人と見積もられています。被災船員には今も、謝罪も補償もなされていません。

広島、長崎に続いて三度被害を受けた日本国民は、無法な水爆実験に抗議して行動に立ち上がりました。東京都杉並区をはじめ「原水爆禁止」の署名運動がひろがり、全国の自治体が決議を上げ、翌１９５５年８月に広島で開催された第１回原水爆禁止世界大会に報告された署名数は、当時の
有権者の半数を超える３１５８万３１２３人という圧倒的な数でした。

**「日本政府に核兵器禁止条約の署名・批准を求める署名」ページQRコード**

**核兵器禁止条約への参加を求めてー「非核日本キャンペーン」の大運動を**

「非核日本キャンペーン」をひろげよう

核兵器禁止条約に参加する日本の実現を！

「核の傘」に依存し、核兵器禁止条約に背を向け続け、３月３日から国連本部で開催される核兵器禁止条約第３回締約国会議に、被爆者や世界の期待を裏切り、オブザーバー参加も拒否しました。この現状を変えるため、私たちは「ビキニ水爆被災７０年から被爆８０年へ―非核の日本をめざす全国キャンペーン」（「非核日本キャンペーン」）をとりくんでいます。詳しくは下欄の日本原水協HPにアクセスください。（2025年3月6日）

核兵器禁止条約に参加する日本の実現を！